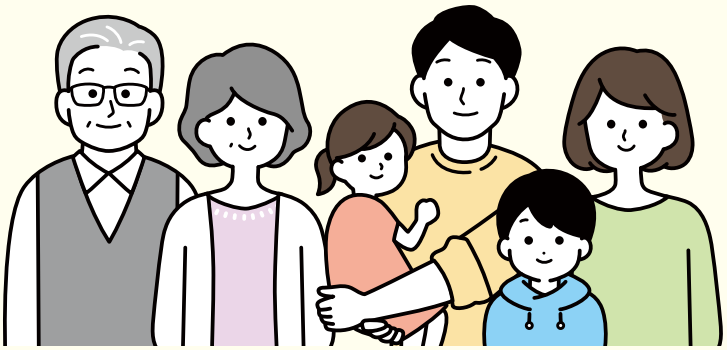
甲賀市
認知症ガイドブック
～認知症ケアパス～



認知症が心配になったら…

まずは、お住まいの地域の
地域包括支援センターに相談しましょう！

水口
水口地域包括支援センター ☎0748-65-1170
〒528-0005　水口町水口 5607 番地　FAX 0748-63-4591

土山
土山地域包括支援センター ☎0748-66-1610
〒528-0211　土山町北土山 1715 番地　FAX 0748-66-1564
（土山地域市民センター内）

甲賀
甲賀地域包括支援センター ☎0748-88-8136
〒520-3492　甲賀町相模 173 番地 1　FAX 0748-88-6557
（甲賀地域市民センター内）

甲南
甲南地域包括支援センター ☎0748-86-8034
〒520-3308　甲南町野田 810 番地　FAX 0748-86-8029
（甲南地域市民センター内）

信楽
信楽地域包括支援センター ☎0748-82-3180
〒529-1851　信楽町長野 1251 番地　FAX 0748-82-3138
（信楽開発センター内）

県の相談窓口

もの忘れ介護相談室　☎0120-294-473（フリーダイヤル）
（公益社団法人「認知症の人と家族の会」滋賀支部）
月・水・金（祝日休み）の 10 時～15 時

甲賀市内の認知症サポート医

まずは、かかりつけ医等にご相談ください。
かかりつけ医がない場合や、受診につながりにくい場合などは、地域包括支援センター（表紙参照）にご相談ください。

独立行政法人国立長寿医療研究センターが行う認知症サポート医養成研修を終了し、「かかりつけ医」への助言等の支援を行うとともに、専門医療機関や地域包括支援センター等との連携の推進役となる医師を「認知症サポート医」と言います。

医師氏名	医療機関名	☎電話番号
増田　清博	ますだ内科医院	0748-88-2277
古倉　みのり	甲南病院	0748-86-3131
馬場　真奈美	甲南病院	0748-86-3131
今村　陽一	今村医院	0748-86-2119
中島　恭二	甲賀市立みなくち診療所	0748-62-3346
今枝　加奈子	甲賀市立信楽中央病院	0748-82-0249
北川　貢嗣	甲賀市立信楽中央病院	0748-82-0249
長谷川　隼人	甲賀市立信楽中央病院	0748-82-0249
小河　秀郎	公立甲賀病院	0748-62-0234
小宅　由朗	水口病院	0748-62-1212
田中　宏一	水口病院	0748-62-1212
宮本　大輔	水口病院	0748-62-1212
胡井（えびすい）　優	水口病院	0748-62-1212
東　理	かりゆしクリニック	0748-67-0155

滋賀県内の認知症疾患医療センター

認知症疾患医療センターは、「もの忘れサポートセンター・しが」として、認知症にかかわる人からの相談、鑑別診断、専門医相談、関係機関との連携、地域保健医療・介護関係者への研修等を行う拠点として県内７か所の医療機関が指定されています。

名称	☎電話番号
水口病院認知症疾患医療センター	0748-63-5430
瀬田川病院認知症疾患医療センター	077-543-1441
豊郷病院認知症疾患医療センターオアシス	0749-35-5345
藤本クリニック認知症疾患医療センター	077-582-6032
セフィロト病院認知症疾患医療センター	0749-68-5716
近江温泉病院認知症疾患医療センター	0749-46-0010
滋賀八幡病院認知症疾患医療センターおうみ	0748-33-7106

若年性認知症に関する相談についても各認知症疾患医療センターで対応しています。

甲賀市 高齢福祉課
0748-69-2175

（2026.8 発行）

～甲賀市認知症ケアパス～

認知症の進行に応じた対応と利用できる支援を示したものを認知症ケアパスと言います。ご本人の状況を把握し、今後の見通しの参考にしてください。

認知症の段階	認知症の疑い・日常生活自立 MCI（軽度認知障害）		認知症 初　期	中　期	後　期
認知症の経過	認知症の疑い	もの忘れはあるが日常生活は自立	見守りがあれば自分でできることも多い	日常生活に手助けが必要	常に介護が必要
本人の様子 （症状には個人差があります）	□もの忘れが多くなる □同じことを何度も聞く □外出がおっくうになる □物がなくなる	□買い物や金銭管理にミスがみられる □約束したことを忘れる □気分が落ち込んだり、不安が強い □片付けが苦手になる □意欲がわかない □怒りっぽくなった	□日にちや曜日が分からなくなる □道に迷うことがある □薬の飲み忘れ、飲み間違いをする □家事などの段取りができなくなる □大事な物のしまい場所が分からなくなる	□着替えや食事、排泄などに手助けが必要になる □時間や場所、季節が分からなくなる	□言葉によるコミュニケーションが難しくなる □失禁が増え、介護の手間が増える □飲み込みが上手くできず、食事に介助を要する
本人の気持ち	□人から忘れっぽくなったと言われる □ちょっといつもと違う、何かおかしい □人に迷惑かけたくない □怒らないでほしい		□今までできていたことが上手くいかずイライラする □気持ちが落ち込み、家事も趣味もやる気が起きない □失敗したことを取りつくろう		□自分の言葉で感情や気持ちを伝えることができない
家族の気持ち （気持ちは揺れ動く）	〈とまどい・否定〉 □いつもと違う言動に戸惑い、「年のせい」と認知症を否定 □人に打ち明けられず悩む		〈混乱・怒り・拒絶〉 □困らせるためにわざとしているのではないかと腹が立つ □振り回され、疲れ果てる、つらい、気が休まらない	〈割り切り・あきらめ〉 □怒っても仕方がないと気づく □なるようにしかならないと開き直る □本人のあるがままを受け入れられる	〈理解・受容〉 □認知症の人に対する愛しさが増す □最期をどう迎えるか
接し方	話に耳を傾け、おしゃべりする時間を大切にしましょう		怒らない、急がせない、自尊心を傷つけない		強要しない、慌てない、孤独にしない
本人や家族がやっておくといいこと	●規則正しい生活をしましょう ●「様子が違う」と思ったら、かかりつけ医に相談しましょう ●認知症や介護保険について学ぶ（認知症サポーター養成講座等） ●外出の機会を持ち、人との交流を続けましょう ●家庭内での役割を続けられるようサポートしましょう		●一人で抱え込まず、介護仲間を作りましょう ●認知症を隠さず、身近に理解者や協力者を作りましょう ●火の不始末や事故に備えて安全対策を ●本人ができることを大切にし、一緒に行い、自尊心を尊重する ●感情的になりそうなときは、少し距離をおく		●介護者の健康や生活も大切にしましょう ●今後のことを考え施設などの情報も集めておきましょう ●人生の最後をどう迎えるか家族と話しておきましょう

利用できるサービスなど		
	介護予防・社会参加	●介護予防ミニサークル　●いきいき百歳体操　●地域サロン　●オレンジカフェ　●キャラバン・メイト ●シルバー人材センターなどの就労　●ボランティアポイント制度　●ボランティア活動　●チームオレンジ
	相　談	●地域包括支援センター　●民生委員・児童委員　●オレンジカフェ　● 甲賀市介護者の会　●もの忘れ介護相談室（「認知症の人と家族の会」滋賀県支部）
	医療・介護保険サービス	介護保険の検討・申請 介護予防・日常生活支援総合事業　・　介護サービスの利用 ●ケアマネジャー＜要介護認定を受けたらケアマネジャーと相談しながらサービスを利用しましょう＞ 訪問介護、訪問入浴、訪問看護、訪問リハビリテーション、通所介護、通所リハビリテーション、短期入所、小規模多機能型居宅介護、看護多機能型居宅介護、住宅改修、福祉用具（レンタル・購入）等 ●かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局　●認知症サポート医　●認知症疾患医療センター
	見守り・生活支援	●配食サービス　●宅配サービス　●訪問理美容サービス助成事業　●介護認定者福祉車両運賃助成事業（タクシー券）●介護用品購入費助成事業（おむつ券） ●民生委員・児童委員 ●認知症サポーター養成講座　●認知症サポーター　●オレンジサポーター　●こうか市チームオレンジ ●緊急通報システム事業　●認知症高齢者等個人賠償責任保険事業 ●徘徊高齢者見守り支援事業　●徘徊高齢者事前登録事業
	家族支援	●オレンジカフェ ●在宅介護アドバイス事業 ●甲賀市介護者の会
	住まい	●自宅（住宅改修、福祉用具）　●サービス付き高齢者向け住宅　●有料老人ホーム ●小規模多機能型居宅介護　●看護多機能型居宅介護　●グループホーム　●介護保険施設（老人保健施設、特別養護老人ホーム）

その方にあったサービスはさまざまです。まずはお住まいの地域にある地域包括支援センター（表紙に連絡先掲載）に相談してください。

今どきの豆知識！

「新しい認知症観」って？

認知症になってもできること・やりたいことがあり、地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるという考え方です。

「認知症施策推進基本計画」で提唱

認知症について知ろう

認知機能の衰えで、日常生活に支障をきたしている状態を認知症といいます。

認知症の主な疾患

アルツハイマー型認知症

女性に多く、進行は緩やか
記憶障害が著しい
●少し前のことを忘れる
●同じことを何度も言う
●日にちが分からなくなる

脳血管性認知症

男性に多く、脳血管障害で脳細胞が死滅することで発症
●意欲が低下する
●涙もろくなり、感情の制御がしにくい
●脳卒中の発作のたびに症状が悪化

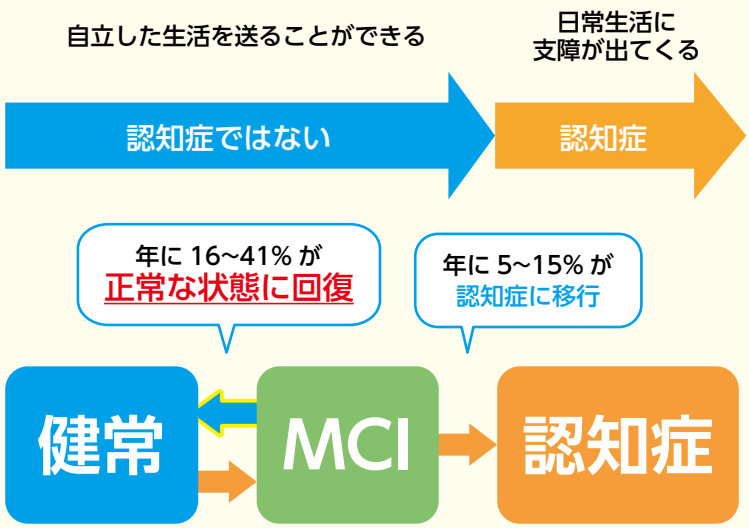
レビー小体型認知症

歩行が小刻みで転倒しやすくなったり、幻視があらわれることがある。
●子どもや虫が見えると言う
●睡眠中に大声を出したり、手足をばたつかせる

前頭側頭型認知症

意欲や理性、感情のコントロールが難しくなる。万引きや無銭飲食など反社会的な行動が増える。
●同じ時間に同じ行動をとる
●不潔をいとわなくなる

認知症への進行イメージ



「認知症疾患診療ガイドライン 2017」を参考に作成

ちょっと教えて！

MCI(軽度認知障害) とは？

軽度認知障害は、健康な状態と認知症の中間に位置し、記憶力等の低下はあるが自立した生活はおくれる段階です。

放置すると約 1 年で約 1 割が認知症に移行するが、適切な生活習慣改善で回復する可能性があるため、早期発見・早期対策が重要と言われています。

甲賀市の高齢者と介護家族の方に対する支援について

お問合せ：高齢福祉課
☎ 0748-69-2164

※それぞれの事業には対象要件があります。くわしくは高齢福祉課にお問い合わせ下さい。

緊急通報システム事業
ひとり暮らしの高齢者の急病等緊急時に対応ができるよう、緊急通報装置を設置（貸与）します。

徘徊高齢者見守り支援事業
認知症等により徘徊がみられる高齢者の早期発見及び安全を図るため、携帯型発信器（GPS）の利用にかかる費用の一部を助成します。

徘徊高齢者事前登録事業
認知症により徘徊のおそれのある高齢者を対象に、行方不明になっても迅速な対応ができるように情報を事前に市に登録していただけます。

認知症高齢者個人賠償責任保険事業
徘徊高齢者事前登録事業に登録された高齢者を対象が、徘徊中の事故等で他人に損害を与えた場合、市が契約する損害賠償責任保険により損害を補償します。

訪問理美容サービス助成事業
理美容院へ出向くことが困難な高齢者に対して、自宅に出張して理美容サービスを提供します。

介護認定者福祉車両運賃助成事業（タクシー券）
要支援以上の認定を受けご自宅等で生活される住民税非課税世帯の高齢者に対して、通院や買い物の外出支援のため、助成券を交付します。

配食サービス事業
疾病などの理由で食事の用意ができない方に配食サービスの費用を一部助成します。

在宅寝たきり高齢者等介護激励金支給事業
介護が必要な高齢者等を在宅で介護し、かつ高齢者等と生計を同じくしている介護者に激励金を支給します。

介護用品購入費助成事業（おむつ券）
在宅での生活において介護が必要な方に、介護用品に係る費用の軽減のための助成券を交付します。

補聴器購入補助金交付事業
聴力低下により生活に支障がある高齢者に対し、補聴器の購入費用の一部を助成します。

早期発見のメリット

認知症は病気です。完治は難しいですが、早期に適切な対処をすることで、その人らしい生活を続けることができます。

1 早期であれば治療が可能な場合があります。

認知症の原因はさまざま。治療ができる疾患である場合もあります。まずは受診し、原因となる病気の診断を受けましょう。

2 対処の方法を知ることで、進行を遅らせることができます。

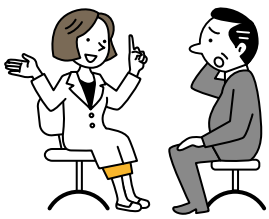
生活習慣の改善や社会参加の機会づくりをすることで、認知症の進行を遅らせることができます。また早期で条件が合えば使用できる薬の開発も進んでおり、進行を遅らせ、自立した生活が送れる期間が伸ばせるようになってきています。

3 本人も、家族も、事前に準備ができます。

病気と向き合い、見通しを持つことで、今後の生活に備えることができます。認知症のことについて学んだり、相談先を見つけ、介護サービスの利用方法について一緒に考える時間が持てます。家族会や認知症カフェなどで相談や交流ができることで、不安や孤独を和らげることができます。

受診するときのコツ

- いきなり認知症専門医にかかることに抵抗がある場合は、まずはいつものかかりつけ医に相談してみましょう。
- 本人と一緒に受診することが難しい場合は、まずは家族だけでも相談してみましょう。
- いつごろから症状が出たか、おかしいなと気づいた出来事、普段の健康状態などをメモしておくと伝えやすいです。
- 本人の自尊心を傷つけないように、事前にメモを渡すなどの工夫も有効です。



接し方の７つのポイント

認知症の人だからといって付きあいを変える必要はありませんが、認知症を正しく理解して対応することが必要です。

①まずは見守る
さりげなく様子を見守り、必要に応じて声をかけます。

②余裕をもって対応する
落ち着いて自然な笑顔で接します。困っている人をすぐに助けようと思って、こちらの気が急くと、その焦りや動揺が相手にも伝わってしまいます。

③声をかけるときは一人で
なるべく、一人で声をかけます。複数で取り囲んで声をかけると、恐怖心をあおり、ストレスを与えます。

④後ろから声をかけない
ゆっくりと近づいて本人の視界に入ったところで声をかけます。とくに背後からの声かけは相手を混乱させます。

⑤やさしい口調で
目の高さを合わせ、やさしい口調を心がけます。一生懸命なあまり 強い口調になると「怖い」「嫌い」という印象を与え、そのあとのコミュニケーションが取りづらくなります。

⑥おだやかに、はっきりした口調で
耳が聞こえにくい人もいます。ゆっくり、はっきり話すようにします。その土地の方言でコミュニケーションをとるのも、安心感につながります。

⑦会話は本人のペースに合わせて
ひと言ずつ短く簡潔に伝え、答えを待ってから次の言葉を発しましょう。先回りして「つまり●●ということですね」などと結論を急がず､ゆっくり聞き、相手の言葉を使って確認していくようにします。

知っていますか？

認知症サポーター養成講座を受けてみませんか！

認知症サポーターとは、認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る応援者のことです。認知症についての講座を無料で受講できます。

認知症サポーター養成講座

甲賀市では認知症サポーターが地域で活躍するために、
こうか市チームオレンジ事業に取り組んでいます。
認知症に関する啓発活動をしたり、オレンジカフェで活動するなど、
「何かできることをしたい」と思っているあなた！一緒に活動しませんか？

こうか市チームオレンジ事業